

【ポスター発表】

## WHOのエイジフレンドリーシティ・グローバルネットワークにおけるアフィリエイト

○ 日本女子大学 増田幸弘 (009722)

キーワード：エイジフレンドリーシティ、アフィリエイト、WHO

### 1. 研究目的

本報告の目的は、世界保健機関（WHO）が提唱するエイジフレンドリーシティ・グローバルネットワーク（Global Network for Age-friendly Cities and Communities）におけるアフィリエイト（Affiliate）の役割の重要性を示すことにある。なお、以下では、エイジフレンドリーシティを「AFCC」、エイジフレンドリーシティ・グローバルネットワークを「GNAFCC」と略す。

### 3. 研究の視点及び方法

本研究は、社会福祉政策の視点から検討を行った。研究方法は、文献調査（文献および資料の分析）を主とし、不明な部分については団体の担当者より説明を受け確認した。

### 3. 倫理的配慮

一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理規定にのっとり研究を実施した。

### 4. 研究結果

以下の（1）および（2）は、報告者が共同執筆を行った論稿である坏他（2020）<sup>1</sup>からの引用である。

#### （1）わが国の研究動向

AFCCに関するわが国の研究動向として、次の3点を指摘することができる。①AFCCやGNAFCCを対象とする研究の蓄積が少ないこと。②研究領域が多様であること。③分析対象としてわが国の具体的な事例を取り上げるものが多いこと。アフィリエイトに関する研究は、報告者が知り得た限りではほぼ空白状態である。

---

<sup>1</sup> 坏洋一=神尾真知子=黒岩亮子=増田幸弘「社会福祉政策としてのエイジフレンドリーシティ—AFCCの概要と分析の視点—」社会福祉60号, 2020.

## (2) AFCC および GNAFCC の概要

### ①AFCC

WHO は 2007 年に発表した報告書『グローバルエイジフレンドリーシティズーガイド』において AFCC の考え方を示した。AFCC とは、「人々が年を取る過程で生活の質 (QOL) と尊厳が保たれるために、健康と社会参加と安全の機会が最適化されるような、インクルーシブでアクセスシブルなコミュニティの環境である」(WHO 健康開発総合センター資料〔ローゼンバーグ恵美作成〕「WHO の高齢化と健康への取組み～Age-friendly City の背景と概要～」) と説明されている。

### ②GNAFCC

WHO は 2010 年に GNAFCC を創設した。GNAFCC は、AFCC の考えに賛同する各国の地方政府がネットワークを形成し、情報共有・情報交換を行う仕組みである。WHO は GNAFCC への参加の利点とメンバーとしての参加資格基準を以下のように示す。

#### 【参加の利点】

- 世界中のコミュニティとの情報共有にアクセスできる。
- アフィリエイト、実務家、研究者、専門家およびアドボカシー活動家などからなるグローバルネットワークの支援を得られる。
- 専用のウェブサイトを通じて地元の活動や成果を発信すると、認知度が高まる。
- 国際的な研究プロジェクト、共同出版や相互のネットワーキング・共有等の連携の機会が得られる。

#### 【メンバーとしての参加資格基準】

- WHO 加盟国に所在する。
- 法律で定義された特定の地域内において、市民に公共財やサービスを提供する一連の権限を有する、直接選挙されたもしくは委任を受けた行政機関である。
- 部門を越えた協力体制の主導や、ベースライン評価の実施、また管轄地域をよりエイジフレンドリーにするための行動計画の策定、実施及びモニターする権限と能力を有する。

このような AFCC および GNAFCC は、グローバル・ソーシャルポリシーのひとつのあり方であると位置付けることができる。

## (3) アフィリエイト

WHO は GNAFCC のメンバーを地方政府に限定するとともに、それ以外のアクターの参加も認めている。それがアフィリエイトである。一定の要件を満たす組織は、WHO に申請し承認されれば、アフィリエイトとして GNAFCC に参加することができる。

図は、2018 年 9 月時点における各国のアフィリエイトである。ここに示されているように、国 (e. g. Government of New Zealand)、自治体 (e. g. 神奈川県)、民間団体 (e. g. Réseau Francophone des Villes Amies des Aînés) 等、多様な組織がアフィリエイトとして活動

していることが分かる。

図 2018年9月時点における各国のアフィリエイト

Country/region/global	Name
<b>Affiliates</b>	
Argentina	Programa de Asistencia Médica Integral (PAMI)
Australia	Government of Western Australia
Canada	Municipalité Amie des Aînés (MADA)
	Public Health Agency of Canada, on behalf of the Pan-Canadian Age-friendly Communities Initiative
Europe	Covenant for Demographic Change
	AGE Platform Europe
France/French	Réseau francophone des villes amies des aînés
Global	International Federation on Ageing (IFA) <sup>2</sup>
Ireland	Age Friendly Ireland
Japan	Prefecture of Kanagawa
New Zealand	Government of New Zealand
Slovenia	Anton Trstenjak Institute
Spain	Spanish National Programme on Age-friendly Cities
United Kingdom	Centre for Ageing Better – UK network of age-friendly cities
United States of America	AARP Network of Age-friendly Communities

出典：WHO, *The Global Network for Age-friendly Cities and Communities: Looking back over the last decade, looking forward to the next*, WHO, 2018, p. 23.

WHOの文書やガイドラインはアフィリエイトの具体的な活動内容を規定しておらず、各国のアフィリエイトはそれぞれの国や地域の事情に応じた活動を行っている。

たとえば、わが国のアフィリエイトである神奈川県は、「WHOエイジフレンドリーシティ事業」において、「県内市町村のエイジフレンドリーシティに参加について、県が働きかけを行うとともに、メンバーとなった市町村の行動計画策定や先進的な取り組み事例の発信に関して、技術的支援を実施」し、「国際会議等の場を活用し、エイジフレンドリーシティ参加市町村の先進的な取り組みを発信」し、「県内市町村のスポーツ施策推進補助金の算定にあたり、エイジフレンドリーシティ参加市町村に対しては補助基準額のかさ上げを実施」してきた（全国知事会「第8回持続可能な社会保障制度の構築に向けた会議」（2019年5月17日）参考資料5. 先進・優良事例集〔地域包括ケアシステム分野〕「高齢者の社会参加」）。

これらに加えて、神奈川県は、「WHO本部やWHO神戸センターとの緊密な連携を元に、申請や計画内容等に関してWHOとの調整や言語面で全面的に支援を行っている」（神奈川県政策局ヘルスケア・ニューフロンティア推進事業室資料「世界保健機関（WHO）による『エイジフレンドリーシティ』について」2017年4月24日）。

また、フランスのディジョンに拠点を置く民間団体（association）であるエイジフレンドリーシティフランス語圏ネットワーク（Réseau Francophone des Villes Amies des Aînés。「RFVAA」と略）には、フランス語圏（フランス、ベルギー、スイス、アンドラ）の145の自治体が参加している（Francophone Network of Age-friendly Cities, *Activity Report 2019*, RFVAA, 2019, p. 4）。加えて、労働組合の退職者団体（CFDT-retraite）等の団体もRFVAAに参加している。RFVAAは、アドバイス、評価、情報交換・情報発信、国とのパイプ役等の活動を行っている。RFVAAのスタッフは5名であり、地方自治、老年学、社会学等の専門家で構成されている。

このように、WHOに申請しGNAFCCのアフィリエイトとして登録された多様な組織は、それぞれの国や地域の事情に応じた活動を行っている。

## 5. 考察

WHOはエイジフレンドリーな地域のあり方をAFCCとして提唱し、それを世界各国に展開するための方法として、①WHOによるAFCCの認証制度を設けたり、国家に対して何らかの行動を求めたりするような方法を採用せず、②GNAFCCという、エイジフレンドリーな地域づくりに関心を持つ各国の自治体やアフィリエイトが情報共有・情報交換を行うためのネットワークを創設するという方法を採用した。

このように、WHOはその加盟国においてAFCCの考え方に基づく地域づくりを実現するために、世界規模のネットワークであるGNAFCCを形成している。それとともに、GNAFCCに参加しているメンバー（すなわち各国の自治体）の国内における相互間のネットワークや、（フランスのCFDT-retraite等のような）エイジフレンドリーな地域づくりに関心を持つ団体とのネットワークの形成については、各国のアフィリエイトの活動に委ねている。

このことから、GNAFCCのアフィリエイトは、WHOのグローバル・ソーシャルポリシーにおいて、AFCCの構想をそれぞれの国の事情に適合させて実現するための重要な役割を果たしているものと解することができる。また、神奈川県が市町村に対して「言語面で全面的に支援を行って」おり、RFVAAが「フランス語圏」のネットワークであるように、英語圏以外の国のアフィリエイトは、使用言語に関しても重要な役割を果たしていることが推測される。

本報告は、JSPS 科研費 18K02169 の助成を受けた研究成果の一部である。